

令和7年春に新病院開設



暮らしやすいまちを目指して・・・

高度医療で安心の地域づくり

半田市議会議員
よしかず 義の

市政あれこれ

58



発行日：2023年7月20日

発行所：愛知県半田市瑞穂町5-3-18

連絡先：愛知県半田市新池町2-201-22

本年4月に行われた市議会議員選挙の折には、様々なご意見・ご要望を頂戴しました。いずれも暮らしやすさへの改善提案です。ひとつひとつのお声を大切に、解決の道を探って参ります。

半田市は人口減少の一方で単身世帯数のみ増加しており、家族で住む街としての評価が低い結果と受け止めています。家族で住みたいまちとして選ばれるよう、政策をかかげて参ります。

質の高い政策づくりが大切

子育て世代の転入を促すことを目的に、子ども医療費や給食費など無償化する自治体が多く見られます。私は無償化ではなく、政策の質の高さで選ばれるように取組んで参ります。例えば、医療については救急搬送困難事案が発生しないよう、地域全体の医療の質の向上、介護も含めた病診連携の組み立てが重要です。今後さらに核家族化、高齢者の単身世帯の増加も予測されます。令和7年春に新半田病院が開院しますが、地域医療拠点施設として役割が果せるよう、医療・介護の

連携も充実させた、住民目線の医療を求めて参ります。

長期課題にも目を向けて

子育て支援や高齢者福祉などの課題解決が急がれる一方で、産業政策や文化振興策などについても、長期的な視点で積み上げていく必要があります。

文化振興については、令和4年度に「半田市文化芸術推進計画」が制定されました。文化芸術は私たちの生活をいきいきとさせる無限の力をもっています。「アートの方で」プラスワン「あふれる市民生活の醸成を」をスローガンに掲げ、文化振興にも取り組んで参ります。



未来に希望を繋げるまちづくり

産業振興は6次産業化で農業支援を

一昨年の特別委員会の提言を基に、「6次産業化専門職」を設けて頂きました。生産者と加工・販売の連携を可能にする枠組みづくりを期待しています。また、私が所属する建設産業委員会でも、「6次産業化の拠点づくり」を本年度の調査テーマにしております。成果をご期待下さい。

学校給食に地元牛乳の利用を！

地場産業のなかでも「畜産」にはポテンシャルがあります。流通加工の仕組みを整えれば成長が期待でき、支える仕組みが必要です。

例えば牛乳は、市内で10万総も搾乳されていますが、市内に加工会社が無いことから学校給食では市外の乳業メーカーより供給を受けています。周辺市町村とも連携し、学校給食への地元産牛乳の利用を提唱して参ります。



安全を確保する選定基準が必要

学校給食の食材の多くは、価格最優先の入札で決められています。

食材の鮮度は、美味しさとも密接に関係しています。地産地消は、安全な供給と鮮度管理が同時に叶う合理的な解決策です。

また、給食の調理委託についても、価格だけではなく技術・管理能力を含めた選定が必要です。

全国各地の学校給食センターでも、品質にこだわった材料選定と調理をしている事例は多くあります。高い鮮度や安全性を確保するため「選定基準を見習って、「美味しい・安全」を実現して参ります。



半田市の畜産規模と県内シェア

	経営体	飼育数	シェア	順位
乳用牛	26	3,993 頭	14.0	2
肉牛用	27	6,139 頭	13.6	3
豚	5	9,019 頭	-	-

地産地消で食文化の醸成を!!

臭気対策は環境改善の必達課題

半田市は、畜産施設の近くまで市街化区域を拡げてきたために、畜産由来の臭気を感じやすい環境にあります。皆さんからも対策を求める声を多くいただいています。

現在も、畜産施設を含め、事業所などから発生する臭気を「臭気指数」により規制していますが、選ばれるまちになる為には更なる対策が必要です。

市民の皆さんと畜産農家の方々が相互に理解を深め、畜産業の振興にも配慮した対策を考えて参ります。

この内容は6月の一般質問で取り上げています。左記QRコードからご覧下さい。

QRコードの利用もお願いします

ホームページ



6月議会

